



## 『あかしする信仰 東海・北陸のキリシタン史跡巡礼』 発刊に際して

カトリック名古屋教区長 司教 アウグスチノ野村 純一

日本二十六聖人殉教四百年、名古屋教区（知牧区）設立七十五年、司教区になって三十五年を記念して一九九七年に発行された『名古屋教区キリシタン殉教史跡案内』が、殉教者顕彰委員会の尽力によって、このたび全面的に編集し直されて発刊されましたことは大きな喜びです。

一九九七年（慶長二）長崎西坂における最初の殉教者二十六聖人の中のコスメ竹屋、パウロ茨木、ルドビコ茨木、レオン鳥丸、パウロ鈴木の名は尾張（愛知県）出身でした。記憶に新しい二〇〇八年十一月二十四日に祝福された一八八殉教者の内、京都の五十二名の中には、ヨアキム小川、モニカの二名のみ濃（岐阜県）出身者、ガブリエル、トマス藤右衛門、レオキキウすけ、マグダレナの四名の尾張出身者が含まれていました。

寛文崩れ、あるいは美濃崩れといわれる一六六一年（寛文元）春以来の迫害において数多くのキリシタンが尾張北部と美濃の塩村、太田村など九カ村において捕えられ、そのうち指導者と思われた男女二百余名が、一六六五年二月三日（寛文四年十二月十九日）、現在の名古屋市にある栄國寺の地で殉教しました。青山玄神父によれば、検挙された二千人余の全員は寛文七年十月（一六六七）に村方で殉教しました。

このように多くの殉教者を出しながら、塩村においては村八分に耐えてキリシタン類族（子孫）数十名が明治まで存続したと伝えられています。

時代がくだって明治維新後一八七〇年（明治三）から七十三年（明治六）の浦上キリシタンのうち三百七十五名が名古屋に、五百二十四名が金沢（大聖寺、富山を含む）に配流され、多くの人が命を落としました。キリシタン時代から明治まで、よく知られている主な殉教者だけをみてきましても、北は富山県から東は愛知県、三河地方にいたるまで名古屋教区の地において、およそ二千数百名が殉教したと思われます。

殉教者の言葉のもとには「信仰を証した人」という意味からきています。殉教者を思い起こすことによって、わたしたちは何を大切にして生きているか、生きている意味は何か、何のために生きているか、などもう一度人生の根本的な意味を問い直す機会となります。

今年二〇一二年は、二十六聖人列聖百五十年、名古屋教区（知牧区）が設立されて独立した権限をもつ裁治権者が任命されて九十年、司教区になって六十年となります。節目の年にあたって『あかしする信仰 東海・北陸のキリシタン史跡巡礼』が、殉教者顕彰委員会によって新しくまとめられたことに改めて感謝いたします。この史跡巡礼書には、殉教地ばかりではなくキリシタンにゆかりのあるところ、また宣教に関係あるところも掲載されています。

あたらしくなった案内書に導かれて史跡を巡礼して祈り、先駆者の信仰を偲ぶことによってわたしたちの信仰が新たにされることを願っています。そして人々の良心が尊重されて、殉教者を出さない世界が実現することを祈ります。

二〇一二年十二月